

体育科・保健体育科の 「高次の資質・能力」等 について

本日の議論について

目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

見方・考え方

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

内容

	●学年相当	●学年相当	●学年相当
知識及び技能に関する統合的な理解 ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~
（内容の取扱）			

①「目標」「見方・考え方」について

前回WGでの議論を踏まえた改善イメージ

②「体育運動領域の系統性」について

前回のヒアリング等を踏まえた検討イメージ

「表形式による構造化」

「高次の資質・能力」について

体育・保健における検討イメージ

適宜往復しながら
検討を進めることを想定

①

見方・考え方 (Ver.3)

目標 (Ver.2)

体育・保健の新たな「見方・考え方」イメージ（Ver.3）

（「見方・考え方」の改善の方向性）

見方・考え方（各教科等を学ぶ本質的な意義の中核）

各教科等の資質・能力が身に付く中で、**様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生に繋げていけること**を見方・考え方によって示す

主体的・対話的で
深い学び



資質・能力が
身に付く



幸福な人生
よりよい社会

<書きぶりイメージ>

（教科で扱う**事象や対象**）を
（教科固有の**物事を捉える視点**）の視点から捉え（に**着目して捉え**）
（教科固有の**考え方や判断の仕方**）すること

<留意点>

- ◎ 現行より**短く端的に**（各教科の深まりの鍵は「中核的な概念等」を通じて）
- ◎ **経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述に**

体育



（前回（第4回）WG時点のイメージ）

運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、
「**する、みる、支える、知る**」などの**多様な楽しみ方の視点**から捉え、
自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。 92字

運動やスポーツを、
心身の充実に果たす役割や、**多様な楽しみ方の視点**から捉え、
自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。 65字

【第4回WGにおける主な御意見】

- 「する、みる、支える、知る」といった具体的な記述はあえて書かず、幅広い関わり方等を包摂するものとして表現すること考えられるのではないか。
- 運動やスポーツとの関わり方等については、「関わり方」「親しみ方」「楽しみ方」といった記載が考えられる。

現行

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、
自己の適性等に応じた「**する・みる・支える・知る**」の**多様な関わり方**と関連付けること。 92字

保健



（前回（第4回）WG時点のイメージ）

保健に関する課題や情報を、
健康や安全に関する概念やそれに基づく**原則**に着目して捉え、
リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。 82字

保健に関する課題や情報を、
健康や安全に関する概念やそれに**関わる原則**に着目して捉え、
リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。 82字

【第4回WGにおける主な御意見】

- 文章の結びの表現について、なるべく体育と共通的なものとしたほうが理解が進むのではないか。
- 概念や原則については、必ずしも1対1の対応関係となっていないものもあり得ることを踏まえた表現の工夫は考えられないか。

現行

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、
疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりに関連付けること。 80字

体育科・保健体育科の新たな「目標」イメージ等 全校種 (Ver.2)

共通

【柱書】 ●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力について、**運動や健康**に関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して、**発達の段階に応じて**次のとおり育成することを目指す。

小

【知識及び技能】

その特性に応じた運動の行い方や**自他の運動への関わり方**及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する**基本的な動きや技能**を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての課題を見付け、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力・人間性等】

●運動との多様な関わり方や自己の心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。
●自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や**健康の保持増進**を目指し、明るく**楽しい生活**を営む態度を養う。

中

【知識及び技能】

その特性に応じた運動に関する技能や**自他の運動への豊かな関わり方**及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する**基本的な技能**を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、**合理的に**考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力・人間性等】

●生涯にわたる運動との多様な関わり方や自他の心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。
●自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や**健康の保持増進**を目指し、明るく**豊かな生活**を営む態度を養う。

高

【知識及び技能】

その特性に応じた運動に関する技能や**生涯にわたる自他の運動への豊かな関わり方**及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する**技能**を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、**合理的、計画的に**考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力・人間性等】

●生涯にわたる運動との継続的で多様な関わり方や自他の心身の健康やそれを支える社会づくりに関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。
●自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や**健康の保持増進及び回復**を目指し、明るく**豊かで活力ある生活**を営む態度を養う。

※ 今後「高次の資質・能力」等も含めて更に議論を進める中で、「目標」についても教科としての特性をより的確に表現する観点等から引き続き検討を行うことを想定。

見方・
考え方

体育
保健

運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

②

体育運動領域の系統性

表形式による構造化

高次の資質・能力

検討項目③ 内容の表形式化の具体的な形式（1）

令和7年10月14日
総則・評価特別部会資料
（会議後修正版）
赤 梓 追 加

1. 内容の表形式化を行う趣旨・目的

- 論点整理では、分かりやすく使いやすい学習指導要領の実現を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実装を図る観点から、学習指導要領の内容について、中核的な概念等をもとに表形式で構造化を図る方針を示している
- 具体的には、
 - ①「知・技」「思・判・表」(※1)の深まりの可視化、
 - ②「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化により、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する教師の単元づくり(※2)を助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくすることを目指すとしている (※1)「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を指す。以下同じ。
(※2) 題材づくりを含む。以下同じ。
- 総則・評価特別部会として、論点整理の趣旨を具現化する表形式での構造化の在り方を検討し、各教科等WGでの検討に資するよう、具体的に示す必要がある

2. 内容の表形式化の具体的な考え方（「並列」パターン）

- 1. で示した趣旨を具体化する表形式を考える際、個別の「知・技」「思・判・表」それぞれについて、児童生徒の中で相互に関連付けられ、構造化されて深い理解や習得に至った際の資質・能力の姿を示すことが重要となる。また、資質・能力の一体的育成を可視化するには、「知・技」に対応して一体的に育成を目指す「思・判・表」を並列して記載することが考えられる
- これらを表形式で表現すると、以下のようなイメージが考えられる

中核的な概念の深い理解（仮称） XXXXXXXXXXXXXXXXXX	複雑な課題の解決（仮称） XXXXXXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXX ・XXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXX ・XXXXXXX



- 一方、今回の構造化は、現行の「主体的・対話的で深い学び」の実装を図るものであることから、新たな用語の提起には慎重であるべきとの指摘もあり、現行との連続性を感じられる書きぶりとすることが重要。これを踏まえ、可能な限り現行で既に用いられている言葉を使いつつ構造化を図る観点から、以下のような示し方とすることが考えられないか

知識及び技能に関する 統合的な理解 XXXXXXXXXXXXXXXXXX	思考力、判断力、表現力等の 総合的な発揮 XXXXXXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXX ・XXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXX ・XXXXXXX

表形式による構造化パターン①（並列パターン）

令和7年10月14日
総則・評価特別部会資料
（会議後修正版）

資質・能力の一体的育成の可視化

資質・能力の深まりの可視化

（１）項目名		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）	この内容のまとまりにおける知識及び技能を活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）
○学年相当	（小見出し） ・ ・ （小見出し） ・ ・ 右に示す思考・判断・表現の過程で、上に示す統合的な理解を獲得するために必要な要素となる知識及び技能を示す（検討項目⑤で詳細を検討）	（小見出し） ・ ・ （小見出し） ・ ・ 左に示す知識及び技能を活用しながら、上に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す（検討項目⑤で詳細を検討）
○学年相当	（小見出し） ・ ・ （小見出し） ・ ・ 知識及び技能に対応する思考力、判断力、表現力等が共通する場合など、分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。	
○学年相当	（小見出し） ・ ・ （小見出し） ・ ・	
（内容の取扱い）		

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。（示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応）

※表の読み方を示す柱書きや見出し、各項目の番号の示し方等の平仄については告示の検討に際して技術的に検討

表形式による構造化パターン②（並行パターン）

令和7年10月14日
総則・評価特別部会資料
(会議後修正版)

資質・能力の深まりの可視化

		○学年相当	○学年相当	○学年相当
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 知識・技能を活用しつつ、思考力・判断力・表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）	(1) 項目名	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・
	(2) 項目名	(小見出し) ・ ・	下に示す知識及び技能を活用しながら、左に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す。 （検討項目⑤で詳細を検討）	
	(3) 項目名	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・
知識及び技能に関する統合的な理解 この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）	(1) 項目名	(小見出し) ・ ・	左に示す統合的な理解を獲得し、上に示す思考・判断・表現を豊かにするために必要となる知識及び技能を示す（検討項目⑤で詳細を検討）	
	(2) 項目名	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・
	(3) 項目名	(小見出し) ・ ・	学年相当に分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。	
	(4) 項目名	(小見出し) ・ ・	・ ・	・ ・
(内容の取扱い)				

※表の読み方を示す柱書きや、見出しや各項目の番号の示し方等の平仄については告示の検討に際して技術的に検討

資質・能力の一体的育成の可視化

1. 「高次の資質・能力」の可視化の目的

- 検討項目③では表形式での内容の構造化で、
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化

を図ることにより、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する単元づくりを助け「深い学び」を具現化しやすくする方策を検討した

- このうち特に、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」(※以下、総称して「高次の資質・能力」)を示すことについては、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの

※論点整理では、「知・技」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思・判・表」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んでいたが、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉を用いることとしたもの。「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」をまとめて呼称する際、以後「高次の資質・能力」と呼ぶこととする。これらの用語の在り方については、各教科等WGでの具体的な議論も踏まえた上で、学校現場に趣旨が適切に伝わるものとなっているかという視点から継続的に検討。

2. 各WGでの検討に当たっての考え方

- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るためには、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要があります、書きぶりを現時点で一律に整理すべきものではない
- 一方で、各教科等での「高次の資質・能力」は、備えるべき要素や性質等について、一定の共通性があることにより、各教科等を横断して適切に機能を発揮することが期待できる
- 各教科等の独自性を活かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「高次の資質・能力」の書きぶりとなるよう、次頁のように「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックポイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めてはどうか（次頁参照）
- なお、「全てのポイントに照らして異論の余地のない」ものを検討することは困難な場合も考えられるため、各教科等の授業改善に資する点を重視しつつ検討を進めるべきではないか

「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント(案)

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核(「見方・考え方」)に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義(※)や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

(※) 学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を統合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか(学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意)
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか(系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等)

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（**資質・能力の「深まり」**）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（**資質・能力の「一体的育成」**）
➡こうした「**資質・能力の深まり**」と「**資質・能力の一体的育成**」を学習指導要領上で可視化することにより、**資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする**

＜生きて働く＞

知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

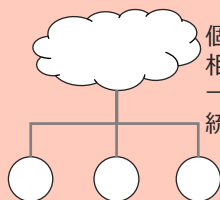
高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

資質・能力の
「深まり」の
可視化



個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化されながら統合的に理解される

個別の知識や技能

(例) ・比例・反比例の理解
・一次方程式の解き方
・二元一次方程式を関数としてみなせることの理解
・現実の事象を関数でモデル化できることの理解
・二次関数でモデル化できる事象があることの理解

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化



＜未知の状況にも対応できる＞

思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

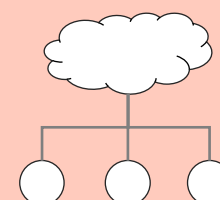
高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の
「深まり」の
可視化



複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を総合的に働かせる

個別の思考力、判断力、表現力等

(例) ・二つの数量の変化・対応関係を見だし、式やグラフを用いて考察する
・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する

【体育】

運動領域の系統性の改善イメージ（案）

表形式による構造化（案）

高次の資質・能力（案）

- 幼児期からの発達段階を踏まえた指導の系統性について、幼小の「遊び」を通した学びの接続を一層充実するとともに、小の「遊び」を通した学びの実質化を図ることはできないか。また、小中の学校をまたぐ際も含め、中高において指導内容が過度に高度化することを解消することはできないか。
- 4年間ごと内容のまとまりの捉えは子供の発達段階に照らして妥当であるとの評価がある一方で、対応する指導内容は必ずしも一致しておらず、4年ごとの段階を活かしつつ豊かなスポーツライフを実現につなげる体育の学習として、より効果的な整理を図ることはできないか。



- ✓ 幼児期の「遊び」を通した学びの成果や、4年ごとの発達段階の捉えを踏まえつつ、小4まで「遊び」の要素を取り入れた学習とすることで、各種の運動の基礎を培う時期に、児童が他者と関わったり自ら試行錯誤したりしながら、体を動かしたり運動したりする良さや喜びを味わったりし、生涯を通じて多様に運動に親しむ基礎をより豊かに育む指導の一層充実につながるのではないか。
- ✓ 小中でまたがる真ん中の4年間のまとまりまでを小からの接続を意識した「運動」とすることで、小中で学校段階が変わった際にも円滑な接続が図られたり、中高における指導内容の過度な高度化の解消につながるのではないか。
- ✓ 中3～高の4年間は自身で選択して学ぶことを通して生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現につなげることを目指す段階であり、こうした学びを実質的なものとするためにも、中2までの学習でその基礎となる運動をバランスよく十分に経験するとともに、中3以降も過度に高度な指導内容とならないようにしつつ、運動・スポーツとの豊かな関わりの機会を確保することが重要であり、この改善はその趣旨と軌を一にするのではないか。

<参考>

幼児期における学び

【領域】

健康

人間関係

環境

言葉

表現

現行

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

改善
イメージ

各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるができるようにする時期			
小 学 校				中 学 校				高等学校			
1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	1 年 生	2 年 生	3 年 生	入学年次	次の年次	それ以降
体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
器械・器具を使つての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
水遊び		水泳運動		水泳運動		水 泳		水 泳		水 泳	
表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
ゲーム		ゲーム		ボール運動		球 技		球 技		球 技	
						武 道		武 道		武 道	
体つくりの運動遊び	体つくりの運動遊び			体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
器械・器具を使つての運動遊び	器械・器具を使つての運動遊び			器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
走・跳の運動遊び	走・跳の運動遊び			陸上運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技	
水遊び	水遊び			水泳運動		水泳運動		水 泳		水 泳	
表現リズム遊び	表現リズム遊び			表現運動		表現運動		ダンス		ダンス	
ゲーム	ゲーム			ボール運動		ボール運動		球 技		球 技	
						武 道		武 道		武 道	



- 体育の学習は、運動領域ごとの特性を踏まえ、自身の動きや仲間との関わり方等を工夫する中でできることが増えていたり、ゲーム展開等が充実したりし、運動の良さや喜びを味わうことができることから、それぞれの運動領域ごとにその特性等を反映した「**知技**」「**思判表**」を分かりやすく示すことで、その運動等の良さや喜びを一層味わうことができるような豊かな学びを教師がイメージしやすくなり、指導の充実につながるのではないかと。
- 「**知技**」における公正、協力、責任等の「**運動への関わり方（仮称）**」に関する内容は、全ての運動領域でその学習を支え豊かにする性格を有するものであることを踏まえ、各領域の特性を踏まえて取り扱うことを前提として、全ての領域共通で示すこととしてはどうか。

小学校【ボール運動系】

※学習内容等（グレー網掛け部分）は、議論の参考に「高次の資質・能力」と対応する内容のイメージとして概略等を示しているもの。

	【高次の資質・能力】知識及び技能の統合的な理解			【高次の資質・能力】思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	そのゲーム等の特性や状況に応じて、自身の動きやボールに関する操作及び仲間と連携したゲーム展開を工夫することにより、自他がその活動を通じた喜びや楽しさを一層味わうことができることを理解している			そのゲーム等の特性や状況から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と伝え合いながらルールや作戦、運動の取り組み方等を工夫することができる
	ゴール型	ネット型	ベースボール型	
1～2年相当	【鬼遊び】 ・一定の区間で、逃げる、追いかける、陣地に走りこむなどの動きにより易しいゲームができる。			【ボールゲーム】 ・投げる捕る等の簡単なボール操作ができる。 ・攻めや守りの動きによって易しいゲームができる。
3～4年相当	・基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを組み合わせ、集団対集団でゴールを競い合う易しいゲームができる。	・基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きを組み合わせ、集団対集団でネットを使用した易しいゲームができる。	・蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、集団対集団でベースボール型の易しいゲームができる。	・自他が運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、ゲームを楽しむために必要なことを考えたり友達に伝えたりすることができる。
5～6年相当	・ボール操作とボールを持たないときの動きを組み合わせ、作戦をもとに集団対集団でゴールを競い合う易しいゲームができる。	・ボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きを組み合わせ、作戦をもとに集団対集団でネットを使用した易しいゲームができる。	・ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、作戦をもとに集団対集団でベースボール型の易しいゲームができる。	・自他が運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた簡単な作戦を選んだり、よりよいゲーム展開に必要なことを考えたり仲間と伝えたりすることができる。
（内容の取扱い）XXX				

※このような示し方で運動領域ごとに示すことを想定。今後、他の領域の「高次の資質・能力」の案も順次作成する中で引き続き検討を行う想定。

小学校【全ての運動領域共通】

	【高次の資質・能力】知識及び技能の統合的な理解
	その運動等の特性や状況に応じて、公正、協力、責任、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が運動に豊かに親しむことができることを理解している
1～2年相当	・規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。
3～4年相当	・規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。
5～6年相当	・ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。
（内容の取扱い）※すべての運動領域において、その特性等を踏まえ取り扱うこととすることを記載することを想定	

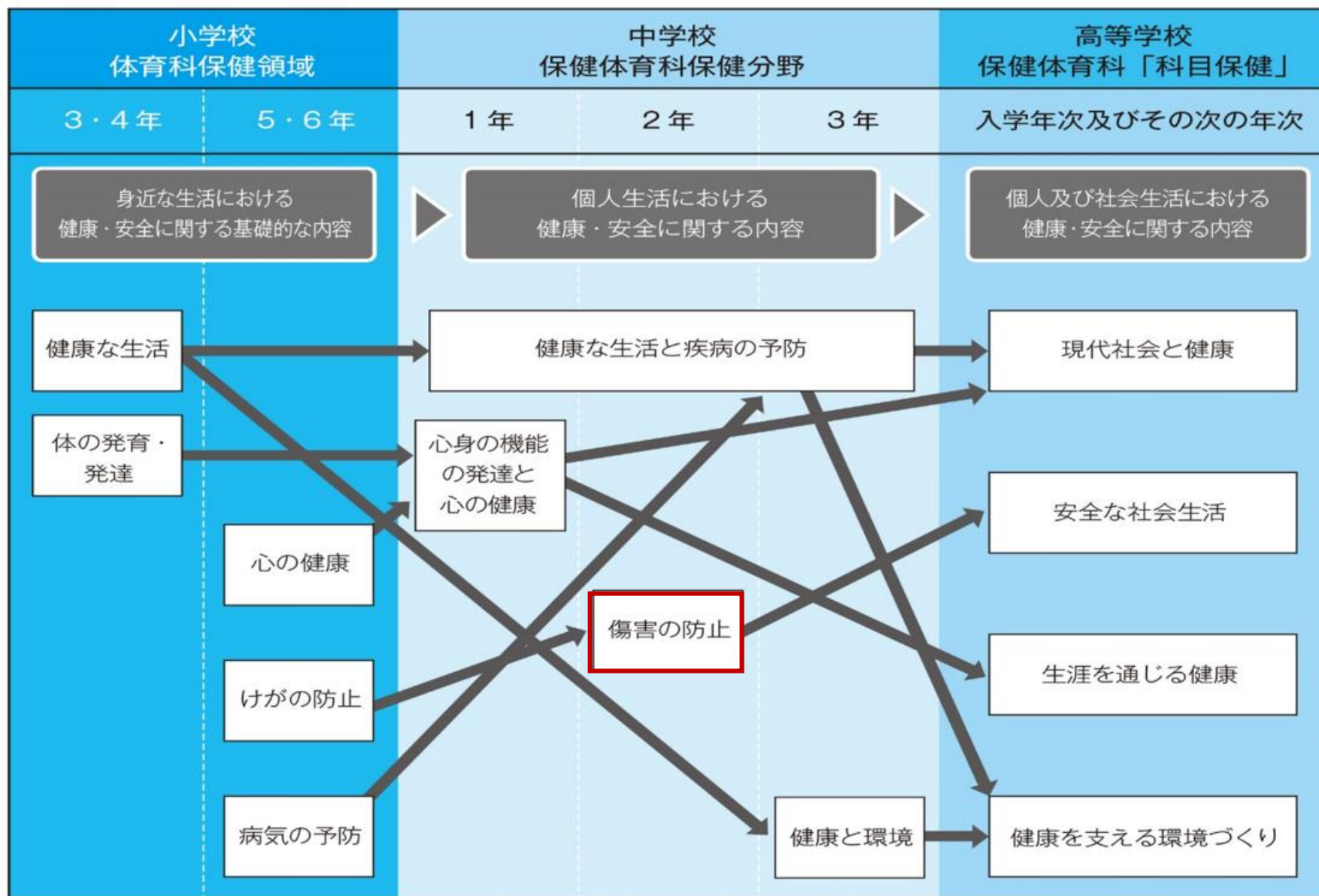
※この「知識及び技能」に対応した「思考力、判断力、表現力等」のあり方については今後検討が必要。

【保健】

表形式による構造化（案）

高次の資質・能力（案）

保健における内容の系統性（参考）



<参考> 幼児期における学び

【領域】

健康

人間関係

環境

言葉

表現

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え
自然との関わり・
生命尊重

数量や図形、
標識や文字などへの
関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

※今後、保健の系統性については別途検討を行うことを想定。



- 現状、保健の内容のまとまりごとの「知技」と「思判表」は、それぞれの内容の特質等を踏まえたものとなっている。保健を学ぶ本質的な意義の中核（見方・考え方）においても言及のある、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則が、内容のまとまりによって性質が異なる（例：「傷害の防止」であれば、応急手当の原則は一定程度明確な一方で、「健康と環境」であれば、身体の適応能力について、どのような環境がどの程度影響をもたらすかは必ずしも一定ではない）こと等から、各まとまりで示す「知技」「思判表」は、内容の特質に応じてわかりやすく示すこととしてはどうか。
- 一方で、保健の学習内容は発達段階を踏まえ、学校段階をまたぎながら共通性のある内容を系統的に取り扱っていること（例：小5（けがの防止）、中2（傷害の防止）、高1or2（安全な社会生活））から、「高次の資質・能力」を検討する際には、学校段階ごとの内容を系統的に見通すことが必要ではないか。また、教師の授業づくりに当たっては、デジタル学習指導要領のイメージを踏まえ、系統性を見通した指導の一層の充実を推進することとしてはどうか。

中学校【傷害の防止】※学習内容等（グレー網掛け部分）は、議論の参考に「高次の資質・能力」と対応する内容のイメージとして概略等を示しているもの。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	【高次の資質・能力】知識及び技能の統合的な理解	【高次の資質・能力】思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することから、安全な行動や環境の改善によって傷害の防止につなげられることを理解する	危険の予測や回避の方法を多面的に考え判断し、生活に適用していくことができる
小5相当	<ul style="list-style-type: none">・けがは、人の行動や環境が関わって発生していること・けがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要なこと・けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること・けがなどの簡単な手当をすること	<ul style="list-style-type: none">・けがや病状の悪化の防止に関わる課題を見付けること・けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること・けがの悪化を防ぐために状況を把握し、処置の方法を判断すること
中2相当	<ul style="list-style-type: none">・傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること・心肺蘇生法などを行うこと	<ul style="list-style-type: none">・傷害の防止に関する自他の課題を発見すること・傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を考え表現すること・傷害に応じた適切な応急手当について、傷害の悪化を防止する方法を見いだすこと
高1or2相当	<ul style="list-style-type: none">・事故の発生には、人的要因や環境要因などが関連していること・安全な社会の形成には、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、地域の連携などが必要であること・適切な応急手当は、疾病の悪化を軽減できることや正しい手順や方法があること、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから速やかに行う必要があること・応急手当を適切にすること	<ul style="list-style-type: none">・安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見すること・自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を考え表現すること・習得した知識や技能を、事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、傷害の悪化防止のための適切な方法に応用すること

（内容の取扱い）XXX

参考

体育・保健の新たな「学びに向かう力・人間性等」の要素イメージ (Ver.2 : 第4回WG時点版)

学びに向かう力・人間性等

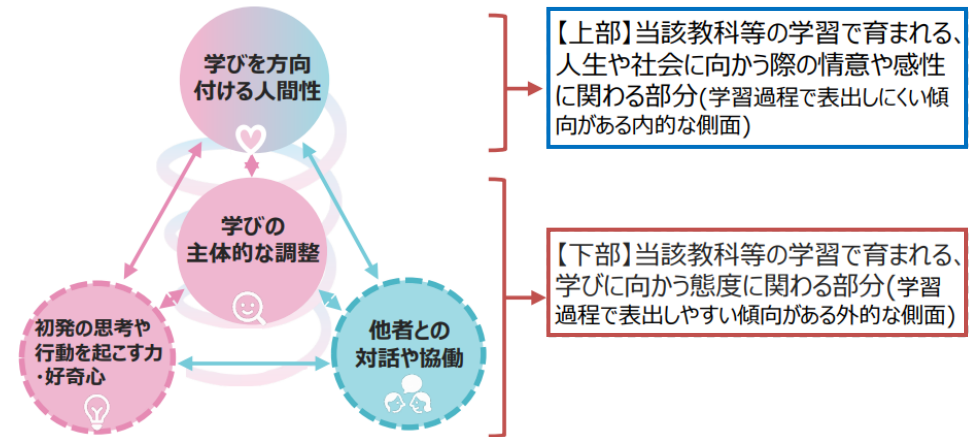
変化の激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育むことを目指し、以下のとおり**主要な要素**等を整理。

①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度
(学習過程で表出しやすい傾向がある外的な側面)

②当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性
(学習過程で表出しにくい傾向がある内的な側面)



主な御意見等

●は体育・保健で共通すること、●は主として体育に関すること、●は主として保健に関すること

- 「意欲」や「主体性」に関する要素をより分かりやすく示してはどうか。
- 「学びに向かう力・人間性等」の要素を含め、目標を検討する際には、体育と保健の関連を踏まえた視点が重要ではないか。
- 態度に関する内容を、知識や技能の面に着目し、資質・能力の中で「知識及び技能」に再整理する方向性は、全ての教師にとって分かりやすく、指導の改善に繋がることが期待される。一方で、「指導内容が増えた」「教え込みが必要」などの誤解が生じることを防ぐ留意が必要。
- 従来「(運動・スポーツに関する)愛好的な態度」として示されていた要素は、将来にわたって豊かなスポーツライフを目指す観点からも、例えば「(他者を)たたえる」といったこと等も含め、子供たちの多様な姿をこれまで以上に積極的に価値づけることが期待される。
(→上記 ● 2点については、次回以降、指導と評価について具体的なイメージを元に更なる検討を予定)
- 保健の学習の特性を踏まえ、学んだことを自身や他者の行動化につなげるといった要素を分かりやすく示すことは重要ではないか。

「学びに向かう力・人間性等」の要素イメージ (Ver.2)

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度【要素】

- ・ 既存の知識や経験等を土台として、初発的な思考や行動を起こす態度
- ・ 教師や指導者を含む他者との対話・協働したり、関係する情報を書籍等から得ながら課題に取り組もうとする態度
- ・ 自身の思考や行動等を客観的に把握し、自己調整に努め、意欲的・主体的に課題等に取り組もうとする態度
- ・ 運動・スポーツとの多様な関わりや、それらを通じた人との関わり等に親しみ、その良さや価値を味わおうとする態度
- ・ 自他の健康の保持増進に向けて、学んだことを日々の生活行動と関連付けて実践しようとする態度

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性【要素】

- ・ 運動・スポーツを、多様な関わり方を前提として生活の中に取り入れ、自身の状況等に応じた心身の充実に努めながら、明るく豊かな生活を営もうとする態度
- ・ 生涯を通じて心身の健康の保持増進及び回復を目指そうとする態度
- ・ 活力あふれる健康長寿社会・共生社会や安全で安心な社会を実現し、社会全体が持続的にウェルビーイングである状態となることに向けて、その環境づくりに主体的・協働的に参画しようとする態度

※「目標」や「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

現行の体育科・保健体育科の「見方・考え方」「目標」

小

【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力・人間性等】

運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

中

【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力・人間性等】

生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

高

【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力・人間性等】

生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

見方・
考え方

体育

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。

保健

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。

第4回WG時点の体育科・保健体育科の「見方・考え方」「目標」

共通	<p>【柱書】 ●●する資質・能力（<u>資質・能力の趣旨</u>）について、●●することなどを通して（<u>学習過程</u>）、次のとおり育成することを目指す。</p> <p>心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力について、体育や保健に関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して、次のとおり育成することを目指す。</p>		
小	<p>【知識及び技能】</p> <p>その特性に応じた<u>運動の行い方</u>や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び<u>身近な生活</u>における健康・安全について理解するとともに、それらに関する<u>基本的な動きや技能</u>を身に付けるようにする。</p>	<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>運動や健康についての課題を見付け、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運動との多様な関わり方や<u>自己の心身の健康</u>に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 ●自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、健康の保持増進や体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく<u>楽しい生活</u>を営む態度を養う。
中	<p>【知識及び技能】</p> <p>その特性に応じた<u>運動に関する技能</u>や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び<u>個人生活</u>における健康・安全について理解するとともに、それらに関する<u>基本的な技能</u>を身に付けるようにする。</p>	<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、<u>合理的に</u>考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生涯にわたる運動との多様な関わり方や<u>自他の心身の健康</u>に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 ●自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、<u>健康の保持増進</u>や体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく<u>豊かな生活</u>を営む態度を養う。
高	<p>【知識及び技能】</p> <p>その特性に応じた<u>運動に関する技能</u>や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び<u>社会生活</u>における健康・安全について理解するとともに、それらに関する<u>技能</u>を身に付けるようにする。</p>	<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、<u>合理的、計画的に</u>考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生涯にわたる運動との<u>継続的で多様な関わり方</u>や<u>自他の心身の健康</u>やそれを支える<u>社会づくり</u>に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 ●自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、<u>健康の保持増進や回復</u>、及び体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく<u>豊かで活力ある生活</u>を営む態度を養う。

※ 今後「高次の資質・能力」等も含めて更に議論を進める中で、「目標」についても教科としての特性をより的確に表現する観点等から引き続き検討を行うことを想定。

見方・考え方

体育 保健

運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、「する、みる、支える、知る」などの多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

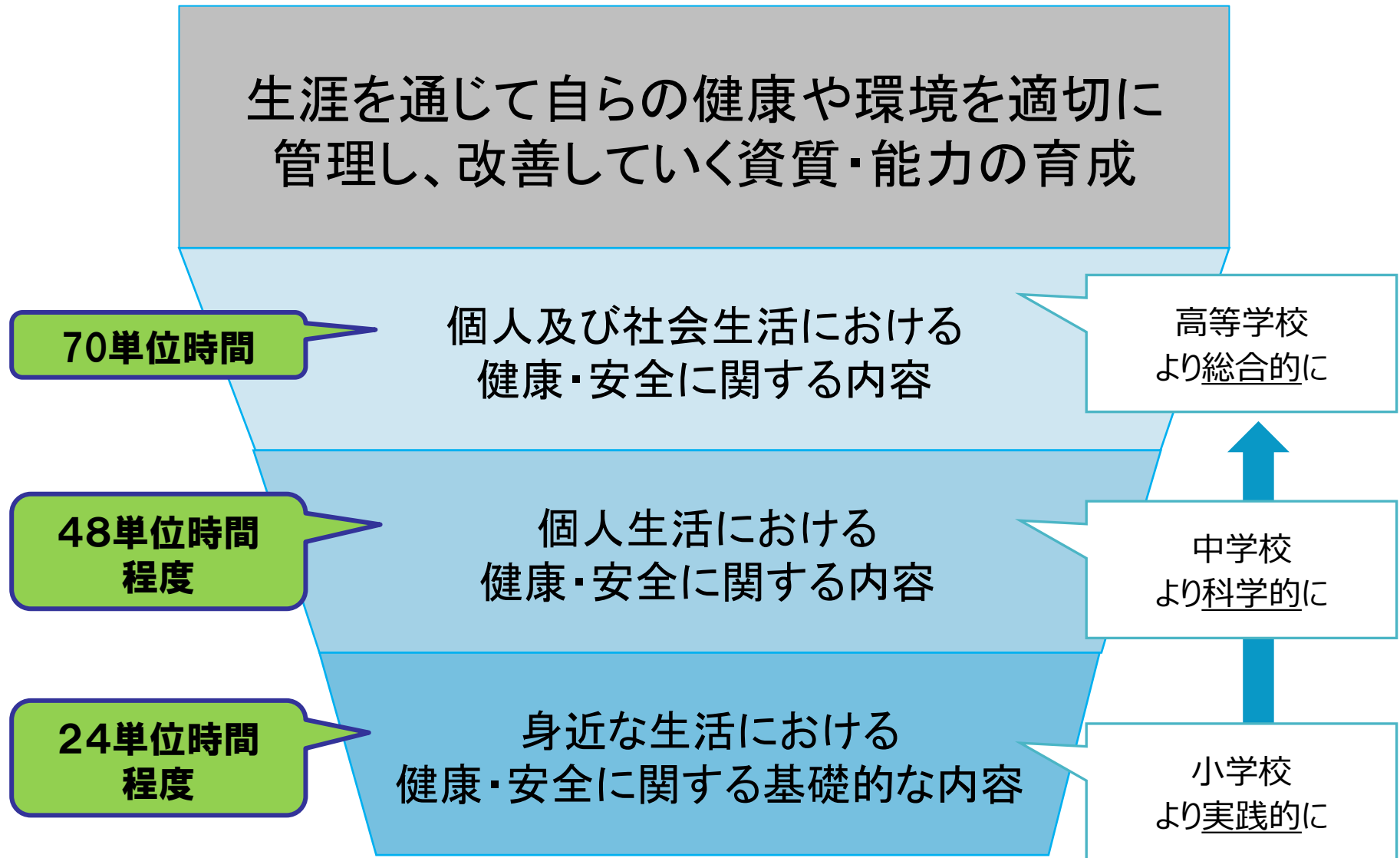
保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに基づく原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

体育科・保健体育科の系統性（現行）

- ◆ 体育科・保健体育科では、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成
- ◆ 小学校から高等学校までの12年間の系統性、発達の段階を踏まえて、4年ごとのまとまりで指導内容を体系化
- ◆ 小学校から高等学校まで、体育科・保健体育科の授業を1週間で3時間程度実施

	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期			
	小 学 校						中 学 校		高 等 学 校			
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	1 年 生	2 年 生	3 年 生	入学年次	次の年次	それ以降
運 動 領域等	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を 使ったの運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水 泳		水 泳		水 泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球 技		球 技		球 技	
							武 道		武 道		武 道	
							体育理論		体育理論		体育理論	
保 健 領域等					保 健		保 健		保 健		保 健	
年間授業 時数等	102時 間	105時 間	105時 間	105時 間	90時間	90時間	105時 間	105時 間	105時 間	体育 3年間で7～8単位 保健 1単位 保健 1単位		
	必修											

保健における体系イメージ（現行）



小・中・高等学校の保健の内容（現行）

小学校（保健領域）	中学校（保健分野）	高等学校（科目保健）
<p>「健康な生活」(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活 ・1日の生活の仕方 ・身の回りの環境 <p>「体の発育・発達」(4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達 ・思春期の体の変化 ・体をよりよく発育・発達させるための生活 <p>「心の健康」(5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の発達 ・心と体との密接な関係 ・不安や悩みへの対処 <p>「けがの防止」(5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止 ・けがの手当 <p>「病気の予防」(6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気の起こり方 ・病原体が主な要因となって起こる病気の予防 ・生活行動が主な要因となって起こる病気の予防 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・地域の様々な保健活動の取組 	<p>「健康な生活と疾病の予防」(1. 2. 3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の成り立ちと疾病の発生要因 ・生活習慣と健康 ・生活習慣病などの予防 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・感染症の予防 ・個人の健康を守る社会の取組 <p>「心身の機能の発達と心の健康」(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能の発達と個人差 ・生殖に関わる機能の成熟と適切な行動 ・精神機能の発達と自己形成 ・欲求やストレスへの対処と心の健康 <p>「傷害の防止」(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因 ・交通事故などによる傷害の防止 ・自然災害による傷害の防止 ・応急手当 <p>「健康と環境」(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の環境に対する適応能力・至適範囲 ・飲料水や空気の衛生的管理 ・生活に伴う廃棄物の衛生的管理 	<p>「現代社会と健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方 ・現代の感染症とその予防 ・生活習慣病などの予防と回復 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・精神疾患の予防と回復 <p>「安全な社会生活」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な社会づくり ・応急手当 <p>「生涯を通じる健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康 ・労働と健康 <p>「健康を支える環境づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境と健康 ・食品と健康 ・保健・医療制度及び地域の保健医療機関 ・様々な保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加 <p>(原則として、入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修)</p>